

1 人口の現状分析

■ 人口動向

- ・市の総人口は戦後一貫して減少傾向にあります。
- ・人口が多い層は60～70歳代で、若い年代の人口数が減少しています。
- ・若い年代では、男性より女性が少なくなっています。

■ 自然増減

- ・近年、概ね300人台の自然減で推移しています。
- ・合計特殊出生率は1.47で、全国1.38より高く、広島県1.54より低くなっています。
- ・平均寿命は、男性80.2/女性86.8で、全国や広島県より0.2～0.9短くなっています。

■ 社会増減

- ・近年、概ね100～200人台の転出超過で推移しています。
- ・「転勤」「転業・転職」「結婚・離婚・養子縁組」等が主な転出超過要因となっています。
- ・住所地では、県内の近隣市町との間で大きな転出超過が生じています。

■ 雇用・就労等

- ・平成21年と平成28年を比較すると、事業所数は1,420から1,164(▲256)に、従業者数は8,657から7,418(▲1,239)に減少しています。

2 社人研による将来人口推計

社人研が公表した直近の人口推計によると、市の総人口は令和27年(2045年)時点で、10,774人に減少するとされています。

3 人口の将来展望

■ 基本姿勢

基本姿勢1 現在を支える世代の定住を図る。

- ・市の人口減少は、進学・就職や転勤を契機とした若年層の転出傾向が大きな要因です。
- ・人が地域に「住み続けたい」と思うには、安心して暮らし続けることができる生活環境の確保と、人と人の繋がりなどに基づく「愛着」が重要な要素です。
- ・市に縁を有する人を増やすこと、市に愛着を持つ人との関係性を深めること、暮らし続けることができる「しごと」と「まち」をつくることにより、現在を支える世代の定住(定着・転入)を図ります。

基本姿勢2 次代を担う子どもを増やす。

- ・日本の人口が減少する中で、移住促進のみで人口を維持するのは困難です。
- ・このため、人口減少への対策としては、生まれてくる子どもの増加が重要となります。
- ・出生率の低迷は、ライフスタイルや就労形態の多様化などの社会的要因によるところが大きいものの、結婚や出産、子育てなど、理想を叶える後押しをすることにより、次代を担う子どもの増加を図ります。

■ 目指すべき将来の方向

取組を推進する際は、人口減少傾向の改善にどう寄与するかという目的意識と成果思考を持ち、また、市内外の様々な主体と協調を図ることを重要な視点とします。

①地域で暮らすためのしごとをつくる。

市内でのしごとの創出及び求職とのマッチングにより就業世代の定着・移住を図ります。

②人の流れをつくり、「縁」を有する人を増やす。

市と縁を有する方の増加や縁の強化を図るとともに、縁のある方の移住を促進します。

③子どもが生まれ、育つ環境をつくる。

独身者や親世代の希望に近づく取組により子どもの増加や子育て世代の定着・移住を図ります。

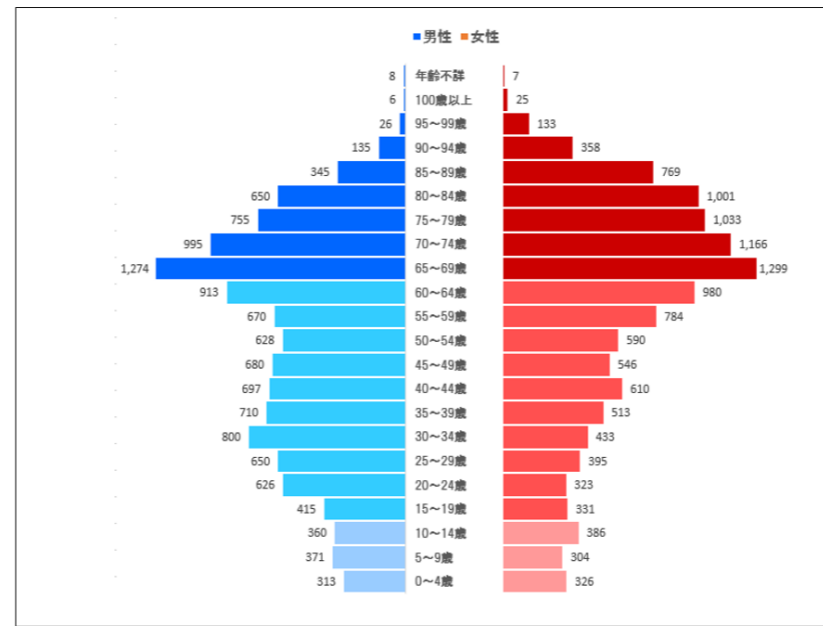
④元気に暮らし続けられるまちをつくる。

市民が健康でいきいきと暮らし、住み続ける安心感を抱くことができるまちづくりを進めます。

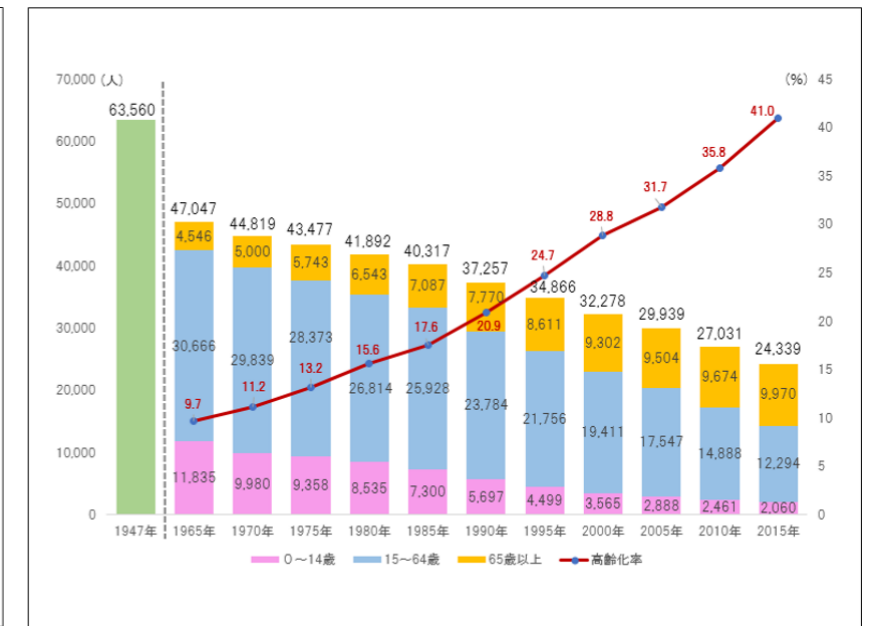
■ 将来展望

第2期総合戦略の施策の成果として、555人の人口効果を生み出すことを想定します。

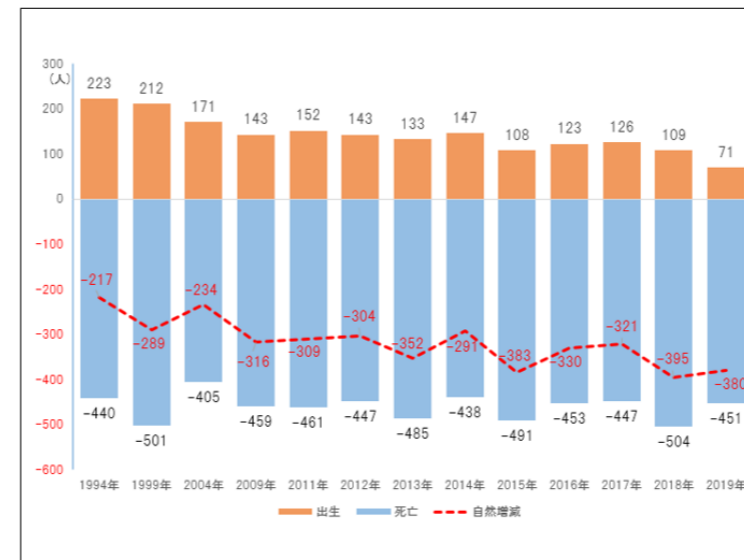
人口ピラミッド(平成27年(2015年))



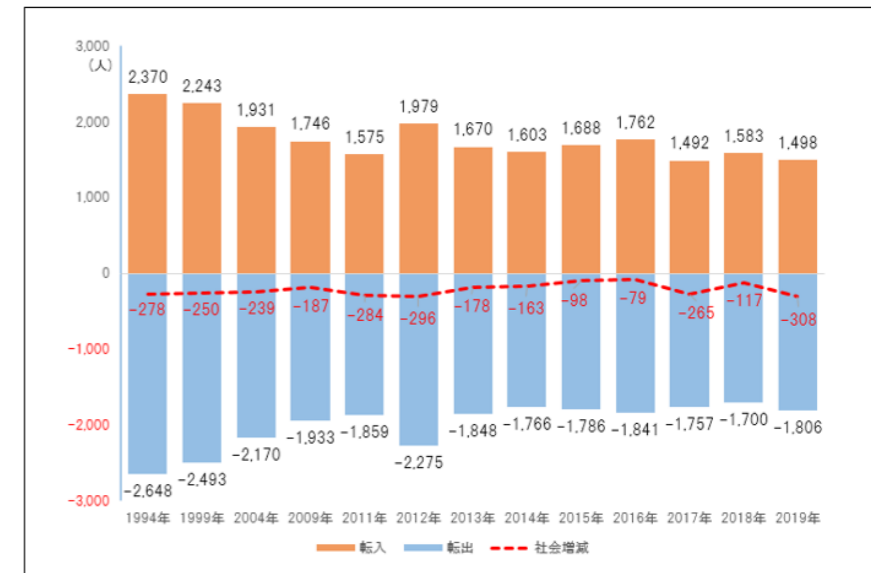
年齢3区分人口の推移(総数)



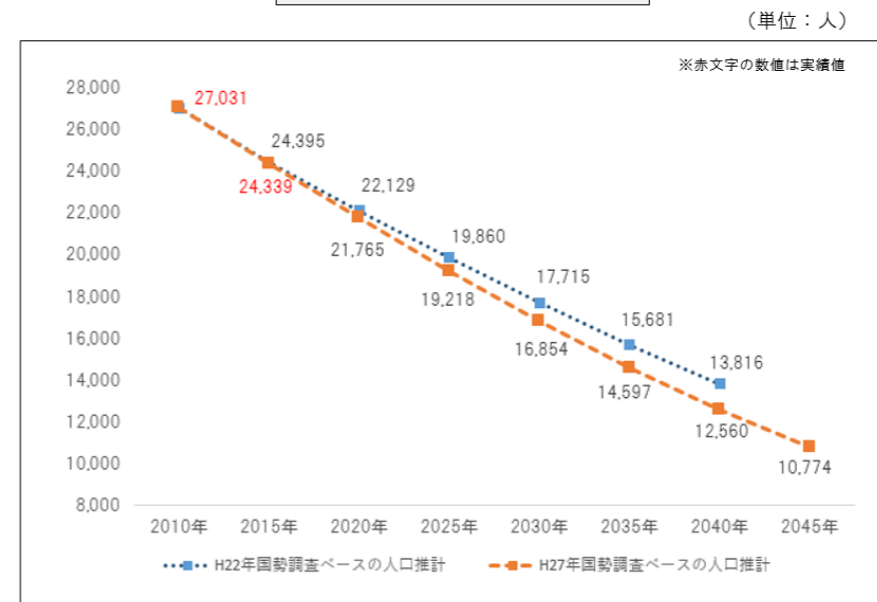
自然動態(出生・死亡)の推移



社会動態(転入・転出)の推移



将来人口の推計(社人研推計)



第2期総合戦略の概要

1 基本的な考え方

- **趣旨**
本戦略では、人口減少対策として取り組む施策の基本的方向、具体的施策を取りまとめます。
- **計画期間**
令和3年度（2021年度）から令和7年度（2025年度）までの5年間とします。
- **政策目標設定と政策検証の枠組み**
 - ・目指すべき将来の方向に掲げる4分野（基本目標）ごとに、重点的に取り組む施策などを掲げ、プロジェクトを取りまとめます。
 - ・重点的な取組施策には、その成果を客観的に検証できる指標（重要業績評価指標：KPI）を設定するとともに、KPIを達成した場合の人口への影響を試算します。
 - ・総合戦略の進捗管理は、外部有識者等で構成する審議会にて検証し、必要に応じて見直しを図ります。
- **計画人口**
令和7年度（2025年度）において、555人の人口効果を生み出すことを想定します。

2 今後の施策の方向性

- **基本理念**
第2次総合計画の基本理念である「協働と交流で創り出す『恵み多き島』えたじま」を、目指す姿として踏襲します。
 - **基本姿勢等**
 - ・「基本理念」「基本姿勢」「目指すべき将来の方向」を踏まえつつ施策を展開します。
 - ・市の人口構造等を鑑み、本戦略の**重点ターゲット層を「若年層」「子育て世代」と**します。
 - **目指すべき将来の方向とプロジェクト施策**
下図のとおり。⇒4基本目標14プロジェクト68重点取組項目
- ## 3 計画の推進方法
- **PDCAサイクル**
 - ・「市まち・ひと・しごと創生本部」や「市まち・ひと・しごと有識者会議」といった内部・外部組織による情報共有や意見交換などにより、客観的な検証を図ります。
 - ・計画期間内においても、必要に応じて、施策の追加や削除、KPIの変更などの修正を弾力的に行います。
 - **広域連携による施策の推進**
必要に応じて、他の自治体とのつながりを活かした施策連携を図り、取組効果を高めます。

基本姿勢1

現在を支える世代の定住を図る。

基本姿勢2

次代を担う子どもを増やす。

目指すべき将来の方向

基本目標Ⅰ 地域で暮らすためのしごとをつくる。 [+265.77人]

プロジェクト1 しごとをつくる・しごとの場を確保する。

創業・起業促進、企業誘致、地場産業の活性化、担い手確保、生産基盤の有効活用

[重点取組]中小企業経営の専門家による相談(WS)、オフィスなどの誘致(WS)、創業者支援、新規漁業就業者研修制度の活用、新規就農者研修制度の活用、学校給食における直接契約による地産地消の推進(WS)、子どもたちが「漁師のしごと」を知る機会の提供(WS)、農地活用希望者のマッチング(WS) [8項目]

プロジェクト2 しごとで稼ぐ。 生産量増加、高付加価値化、6次化、販路拡大、PR

[重点取組]オーリー収穫量増加・耕作放棄地解消、6次産業化・高付加価値化の取組への支援、漁場基盤の整備、えたじま牡蠣のプロモーション強化(WS)、ふるさと納税制度を活用した地場産品の販売促進(WS)、市内事業者と都市圏人材の交流促進(WS) [6項目]

プロジェクト3 お客を呼び込む。 観光魅力づくり、観光情報の発信、受け入れ体制整備

[重点取組]新たな宿泊観光関連施設の整備、観光戦略チーム「一步」による体験型観光メニューの造成(WS)、縁のある民泊生徒へのアプローチ(WS)、市外イベントでの江田島市のPR(WS)、魅力ある観光情報発信の再構築、簡易宿所営業許可等の認可取得サポート [6項目]

プロジェクト4 しごとと人をマッチングする。 求人情報の提供、求職者とのマッチング

[重点取組]若年層への市内企業の紹介や就職情報の提供(WS) [1項目]

基本目標Ⅲ 子どもが生まれ、育つ環境をつくる。 [+60.68人]

プロジェクト1 子どもが郷土で育まれる。 保育・幼児教育

[重点取組]地域と連携した保育の実施(WS)、島の自然などを活用した特色ある保育の展開(WS)、祖父・祖母世帯の子育て参画の推進(WS) [3項目]

プロジェクト2 郷土でしっかりと学ぶ。 学校教育

[重点取組]総合的な学習の時間等における地域と連携した教育の実施(WS)、学校と保護者等のコミュニケーションを図る場づくり(WS)、児童生徒の自己肯定感を高める体験活動の充実(WS)、個別最適な学びの推進による教育の充実、里海教育の推進、ゲストティーチャー等を活用したキャリア教育の推進(WS) [6項目]

プロジェクト3 子育てしやすい環境をつくる。 子育て情報、子育て支援、子どもの居場所(遊び場)づくり

[重点取組]子育て情報の一元的な発信(WS)、保護者による子育て仲間(グループ)づくりの促進(WS)、妊産婦へのケアの実施(WS)、ファミリーサポートセンターの運営(WS)、子どもが自由にのびのび遊びたくなる場所(公園・広場)の確保(WS)、通学定期補助制度の運営 [6項目]

基本目標Ⅱ 人の流れをつくり、縁を有する人を増やす。 [+148.12人]

プロジェクト1 知ってもらおう・興味を持ってもらう。 イメージづくり、情報発信

[重点取組]島暮らしのイメージづくりとプロモーション(WS)、移住希望者目線の島暮らし情報の発信(WS)、定住フェアでのPR [3項目]

プロジェクト2 来てもらう、滞在してもらう。 来訪のきっかけづくり

[重点取組]移住相談への対応、「お試し暮らしの家」の運営、リモートワーカー等の多様な人材の誘引(WS) [3項目]

プロジェクト3 江田島市を好きになってもらう。 縁づくり、愛着の醸成、関係人口の創出

[重点取組]フودによる移住希望者等との縁づくり(WS)、首都圏居住者との関係性の構築・維持、市外居住者へのアプローチ、体験型修学旅行の推進、ふるさとを知る機会の確保 [5項目]

プロジェクト4 暮らしてもらう。 定住促進、住環境、地域コミュニティ

[重点取組]空き家バンクの運営・拡充(WS)、まちづくり人材の取組促進(WS)、まちづくり人材のつながりづくり(WS)、移住者の定着サポート、定住促進補助金の運営、次世代型公共交通システムの研究・実施 [6項目]

基本目標Ⅳ 元気に暮らし続けられるまちをつくる。 [+80.50人]

プロジェクト1 元気なからだを保つ。 医療、介護予防、意識啓発

[重点取組]健診受診勧奨サポーターの養成(WS)、AIを活用した健診受診勧奨(WS)、介護予防に関する意識啓発コンテンツの作成(WS)、がん検診・生活習慣病健診等の推進、救急医療・夜間休日診療体制の確保、介護予防に関する取組 [6項目]

プロジェクト2 出かけていく場をつくる。 交流・活躍の場づくり

[重点取組]高齢者が人と交わることができる場の確保(WS)、男性限定版の集まる機会の確保(WS)、地域の小さな単位でのフリーマーケット開催(WS)、図書館における企画の充実(WS)、生涯学習活動の推進、高齢者の活躍の場の確保(シルバー人材センター) [6項目]

プロジェクト3 みんなで支える体制をつくる。 医療・福祉の推進体制

[重点取組]通いの場運営サポーターの養成(WS)、高齢者に対するケア・見守り活動、住民相互の送迎や乗り合わせによる移動の推進(WS) [3項目]

想定人口効果合計 +555人

※(WS)とあるものは、市民ワークショップのアイデアなどを基にしたものです。